2025（令和７）年度　教養学部地域社会学科　一般選抜（中期）　講評

１　出題の意図

課題文は、小田切徳美（2024）「人口減少の適応策と『にぎやかな過疎』」、『月間ガバナンス』277 号（2024 年５月）からの抜粋である。筆者は、明治大学農学部教授であり、農政学・農村政策論を専門にしている。2014 年に日本創生会議（座長：増田寛也）が「消滅可能性都市」を提唱し、時を同じくして農山村の可能性を提示した、筆者（2014）による『農山村は消滅しない』（岩波書店）を小論文対策や探求時間等で読まれた諸君も多いのではないだろうか。

課題文は、高度成長期から現在に至る我が国の人口動態の様相から始まる。筆者は、過疎地域において近年「地域づくり」が活発化し、人口減少地域だけれども「にぎやかだ」という矛盾した印象を呈している地域に着目し、このことが人口減少適応策の核心であることを指摘している。この「持続的低密度居住地域（にぎやかな過疎）」に「農村たたみ論」を対置させ、双方の論点を浮き彫りにしていく。

設問に際しては、これら筆者の主張に関し読解力や要約力を問う（問１～３）とともに、受験生のこれまでの社会に関する学習を反映した論理展開力を問う（問３）出題としている。

全国から本学本学科を志望する受験生の中には、我が国で急速に進む人口減少・少子高齢化、地方からの若者の転出、東京一極集中等に端を発する社会の構造変化に問題意識を持つ諸君が少なくないと思われる。筆者（2024）による『にぎやかな過疎をつくる 農村再生の政策構想』（農文協）が刊行されたばかりでもあるので、ぜひ手に取って知見を深めてもらいたい。

２　評価のポイント

問１

問１は、読解問題である。

「人口減少地域」であるのに、「にぎやか」の意味を問うものである。この矛盾した表現の意味について説得性をもって説明したい。

よって評価のポイントは、人口減少地域にどのような様相が生まれているのか、文章中の言葉を使って表現できているかである。

問２

問２も読解問題である。

「農村たたみ論」の問題点について問うものである。下線部が引かれた文章のある段落の次に、筆者は「農村たたみ論」の問題点を二点指摘していることから、それらを要約したい。

よって評価のポイントは、「農村たたみ論」の問題点に関する論述から的確に

要点を抜き出すことである。

問３
問３は、読解問題（前半部）と論述問題（後半部）である。
まず、「持続的低密度居住地域（にぎやかな過疎）」の“詰めるべき論点”について説明するものである。下線部が引かれた文章のある段落の次に、論点に関する論述が展開されることから、そこから要約をしたい。
評価のポイントは、「持続的低密度居住地域（にぎやかな過疎）」の“詰めるべき論点”に関する論述から的確に要点を抜き出すことである。
次に、「農村たたみ論」と「持続的低密度居住地域（にぎやかな過疎）」のどちらの考えを支持するか、これまで学んできたことや受験生自身の体験をふまえて、その理由とともに述べるものである。
まずは、どちらの考えを支持するか、意思表示が必要である。その上で、その理由をこれまで学んできたことや受験生自身の体験といった根拠とともに説明をしたい。ここで大事なのは、「持続的低密度居住地域（にぎやかな過疎）」及び「農村たたみ論」の趣旨に沿った根拠が提示できているかどうかである。
評価のポイントは、（１）意思表示、（２）「持続的低密度居住地域（にぎやかな過疎）」及び「農村たたみ論」の趣旨に沿って、これまで学んできたことや受験生自身の体験といった根拠を示せているか、である。

３　採点講評
問１
筆者が表現する「にぎやか」の意味を問われているのに、文章中のポイントをうまくまとめられず、文章として成立していない解答が目立った。
また、「にぎやか」の意味を説明するのに際し、「人口の問題でない」「人口にかかわらず」といった前提はしっかり記述したい。

問２
「農村たたみ論」によって発生する具体的事例を羅列しただけの解答が散見された。反対に、内容は理解できていたものの、意訳しすぎてしまい、ポイントを具体的に指摘できていない解答も散見された。

問３
問３は、読解問題［前半部］と、筆者の論を自己に引きつけてそれを考察する論述問題［後半部］とであった。

［前半部］
・文意を正確に読み取れていないものが散見された。キーワードが一見やさし

い印象だったため、論理的にしっかり読み取る努力がなされていない解答が見られた。
・二つある論点のうち、どちらか一つしか書いておらず、点の取りこぼしとなっている解答が多く見られた。
・この前半部分の解答が長くなってしまい、後半部分が不十分になる解答が見られた。

［後半部］
・どちらの立場であっても共通して、本文の趣旨に合致していない自らの見聞を記述し、経験談に近い形になっている解答が見られた。個人的な感想や家族の状況に依拠した主張（やや感情的な意見）が目立ち、現在の社会で課題となっている一般的な事例や、社会的な視点を踏まえた論述がやや不足していたように思われる。
　自分の見聞に従って記述することは大事であるが、あくまでも本文の趣旨に従った解答が望ましい。
・「コンパクトシティ」＝「にぎやかな過疎」と誤解しているものや、「都市のために農村が必要だ」という趣旨の解答は、課題文の趣旨を正しく理解しておらず、減点とした。
・一方、関係人口の視点を取り入れ、移住や定住に限らない事例（大学生や高校生を巻き込むなど、多様な世代や立場の人々が地域にどのように関与し、貢献するかを考慮した例など）を踏まえ、自身の意見を示していた解答も見られた。

［前半部・後半部を通じて］
・小さい文字、判別しにくい文字があり、読みやすさに欠ける解答は避けたい。
・字数の指定は守られるべきである。
・身近なところに事例がない受験生の中にはしっかり問題文を理解していても、書く題材が思い当たらなかった人もいたように感じられる。当学科を受験するみなさんであれば、地域社会に関する問題に広く関心を持ち、日頃からニュースや本で社会に関する知見を獲得し続けてもらいたい。